

2024年9月8日(日)

老球の細道 827

### 「オラ！ スペインへ 締めは五本締めで」⑫

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

日本最大のバスケット雑誌『月刊バスケットボール』2014年4月号に今回スペインコーチングツアーで同行した二人が掲載されていた。一人は、「とーみん」こと富田佳宏氏である。月刊バスケットボールの元編集長であり、現在はNBAのテレビ解説でおなじみの島本和彦氏が「今月の人」のコラムでスペインバスケット通の第一人者として富田さんを紹介している。バスケットボール未経験の富田さんがどうゆう経緯でスペインのバスケットに精通し、日本とスペインのバスケットボールの橋渡し役になったかが書かれてある。

もう一人は、スペイン人のセルヒオ氏である。彼は月刊バスケットボールにスペインのバスケット事情を紹介する連載記事を書いている。今月号は「日本人もスペインでコーチになれるの？」という内容で、スペインのコーチライセンス制度について紹介している。

つい先日までスペインで一緒に飲んで、食べて、話して、バスケットボールを楽しんでいた人物が天下の月刊バスケットボールで紹介されている。自分のことのようにうれしい。本の中では、彼らの人間性までは書かれていないが、どれだけ情熱的で誠実であるかを私だけが知っているということもまたちょっぴりうれしい。

特に富田さんに関しては、現地で体調不良でお世話になったこともあり、日本に帰って来てからお礼にと会津の酒を贈った。そしたらすぐに奥さんの実家で家族みんな飲んで写真付きのお礼メールを送ってきた。私の気持ちが伝わりうれしかった。「早さは誠意である」。尊敬する新井春生先生(元名古屋経済大学監督)から学んだことである。富田氏の誠実な人柄、そして世界を平気で駆けめぐる行動力に改めて脱帽した。

【2014年 2月9日(夜)】

最高の決勝戦と感動的な表彰式を見てバス停留所に向かった。タクシーがいまだにストライキ中のため案の定バスは長蛇の列。30分くらい待つようやく乗れた。決勝戦は夕方6時から1試合しかなかったのに、ホテルに着いたのは夜中の11時を過ぎてしまっていた。筑波大の吉田先生はリトアニア行きの深夜便になんとか間に合った。

最後の夜なので、みんなでサヨナラパーティー兼夕食を食べに街の中へ出た。スペインは夜も遅い。11時を過ぎているのに人の往来は盛んで、あちこちのレストランはお客さんで満員だった。最後ということもあり、しゃれたレストランを探したが、どこも満員で普通の店に落ち着いた。スペイン料理、ワイン、ビールを飲みながら労をねぎらった。

若い人に交ざりながら大好きなバスケットボールの話ができる。こんな幸せなことはない。最近の会津地区ミニ、中学、高校の若い指導者と腹を割ってバスケットの話をする機会が少なくなった私にとって新鮮だった。スペインまで来てバスケットを勉強しようとする人たちの情熱は並々ならぬものがある。視点、感性もひと味違う。

打ち上げの最後の締めは私に託された。「いよー、パシ(拍手)」の一本締めで終わるところを「さんさん七拍子」を人差し指の一本指で叩くことから始め、順に二本指、三本指と進み、最後は五本指(手のひら)で打つ「五本締め」で終えた。バスケットボールの5人に関連させてやったら大好評であった。明日はいよいよ帰国の途へ。 〈続く〉